

# SEINAN CHANTEURS

'97 ANNUAL CONCERT

SINCE 1954

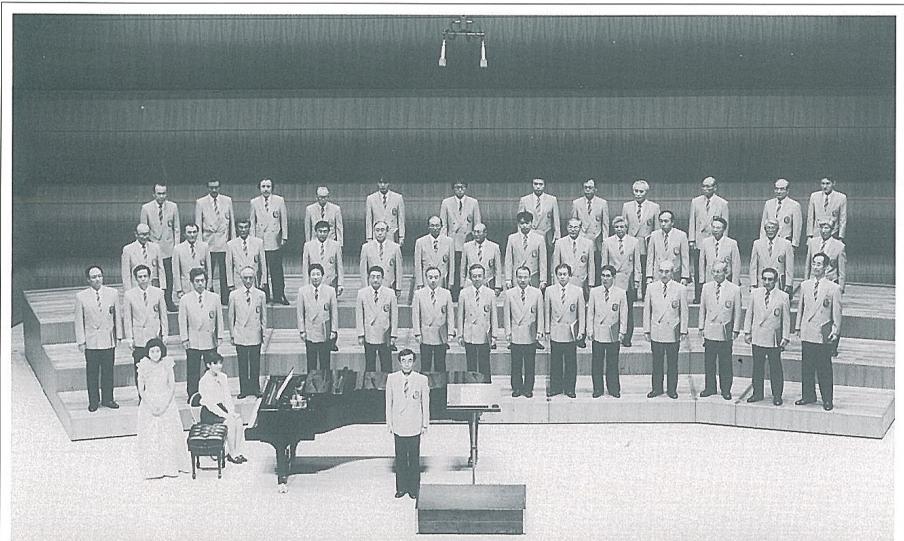


# '97西南シャントゥール定期演奏会

賛助出演／西南学院グリークラブ

1997. 11/8(土)

アクロス福岡シンフォニーホール



## Hail, Seinan

Seinan, our bastion of faith,  
Vivid dream of a bygone year,  
Crown'd with honor love and truth,  
'Be true to Christ' is our prayer.

Hail to our Alma Mater !  
Lighthouse by the sea, radiant,  
Gleams for her sons and daughters  
With God's love, resplendent.

Ah, Seinan, school of wisdom,  
Whose fair halls ring with laughter,  
Glow with knowledge and freedom,  
Symbols of Divine favor !

Behold ! her banners fly high,  
O'er students of purpose true,  
United to live or to die,  
Her emblems e'er to keep pure.

ごあいさつ



徳永麟之助  
西南シャントゥール会長

三年前、私どもの創立四十周年記念演奏会に石丸寛氏を客演指揮者としてお迎えしたのですが、その彼がガンと闘い続けていたことを最近の報道で知りました。病院のベッドと指揮台を往復しながら指揮生活45周年演奏会をサントリーホールで開催、しかも「死については考えないことにしています、身体が不調でも音楽に打ち込むと忘れられます」と語り身体が許す限り音楽を続けると言う彼にある種の感動を覚えます。そんな彼に比べまがいながらも健康を維持しているわが身を感謝せざるを得ません。しかし89歳の現在流石に全ステージ出演に不安を覚えます。今年も一ステージだけ歌うことになりました。私事になりましたがお許し下さい。

さて、今宵は作曲家多田武彦氏に委嘱した男声合唱組曲「三崎のうた・第二」と同じく吉田悠作氏に編曲を依頼した「アイルランド民謡集」そして大作で難曲ケルビーニの「レクイエム」から二曲をお聞き頂きます。今年も挑戦です。サムエル・ウルマンの言葉「青春とは人生の一時期を言うのではない」ではありませんが、挑む姿勢を維持する限り私は青春を続けることができるのだと信じます。勿論文字通り青春真っ只中の歌声、西南学院グリー・クラブの「雪国にて」もお楽しみ下さい。毎年多くの皆様のご来場を賜り団員一同心より感謝いたしております。どうぞ今後とも西南シャントゥールに暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。



内海 敬三  
西南シャントゥール  
常任指揮者

アイルランドは北国であるがメキシコ湾海流（暖流）の影響で冬でも雪はあまり降らず、一面の緑のシャムロック（クローバーの一種）ゆえにエメラルドの島といわれる。また歌も古くから我が国でも親しまれ、愛されているものが多い。

20年ほど前、ダブリンの郊外でホームステイをしたが、そのおじさんは底抜けに陽気で、酒好き、話好きであったが、こと歴史の話になると、厳しい顔つきになり、強いなまりの英語で熱心に語ってくれた。

今静かなケルト・ブーム、アイルランド・ブームである。しかし、美しいその歌の背後には、植民地支配の重い歴史があることを思うとき、日本と隣国との関係がオーバーラップしてくれるのは私だけではないと思う。

ケルビーニをベートーヴェンは高く評価したが、ベルリオーズは辛口の評価をした、と言われる。一時期彼は作曲をやめ、植物学や絵画の研究に励んだこともあったという。作曲再開後は主として宗教曲を作った。レクイエムは2曲あり、第一番は混声合唱で、彼に絶頂期にルイ18世の依頼により作曲された。その後パリの大主教が、この曲が女声を必要とするとして、葬儀での使用に否定的であったため、1836年この第二番をその批判を避けて男声合唱として、自らの葬儀のために書いた。男声合唱を愛するものとしては、この曲を作る動機を作ってきてた大主教に感謝せねばならないのかもしれない。我々は10年ほど前、一度練習をやりかけたが、メンバー不足であきらめたという、いわくつきの曲で、今回やっと最初の二曲だけではあるが歌うことになった。いかにも男声合唱らしい、宗教曲というよりオペラを思わせる名曲である。ならば、曲良し、会場良し、あとは我々の技術と努力が問題である。

## PROGRAM

'97年度委嘱作品

### I 男声合唱組曲「三崎のうた・第二」

1. 後 朝 三曲
2. 片浦千鳥
3. 遠 樹
4. 遠い岬
5. 墓
6. 鯉 綱

作詩 北原白秋  
作曲 多田武彦

指揮 徳永和彦

'97年度委嘱作品

### II 男声合唱とハープのための アイルランド民謡

編曲 吉田悠作

1. St. Patrick's Day
2. It's a Long, Long Way to Tipperary
3. The Kerry Dance
4. Macushla
5. The Minstrel Boy
6. Londonderry Air

指揮 内海敬三  
ハープ 荒尾ルミ子

intermission

### III 賛助出演 西南学院グリークラブ

#### 男声合唱組曲「雪国にて」

作詩 堀口大學  
作曲 多田武彦

指揮 宮田王恵

1. 関川の里
2. 或る誕生
3. 雪の中の歌
4. 昔の雪
5. 老雪
6. 雪中越冬

### IV レクイエム ニ短調 より

作曲 Luigi Cherubini

- Introitus et Kyrie
- Dies Irae

指揮 内海敬三  
オルガン 平田孝子  
ティンバー 正田康敏

沖は晴かよ、  
早や朝風か、  
浜は満潮か、  
法螺の呼び。沖は晴かよ、  
法螺が鳴つたとて、  
どうかへさりよか、  
こんど、網解きや、  
よその舟。沖は晴かよ、  
浜は晴かよ、  
浜は満潮か、  
法螺の呼び。沖は晴かよ、  
浜は晴かよ、  
浜は満潮か、  
法螺の呼び。

徳永 和彦（指揮）

1961年、西南学院大学商学部卒業。福岡高等学校コーラス部、大学グリークラブを通して学生指揮。  
現在、福岡コンピューターサービス(株)に勤務。

# I. 男声合唱組曲「三崎のうた・第二」

創作への管制塔・西南シャントゥール

多田 武彦

1993年、西南シャントゥールから初めて新曲の委嘱があった。「出来れば、北原白秋の詩による男声合唱組曲を」との希望であった。私は既に、詩人北原白秋先生の詩による男声合唱組曲を七つ書いているが、もう一度白秋詩集を開いてみた。私が見落としていたすばらしい詩群があり、男声合唱組曲「柳川風俗詩・第二」が出来た。翌年、西南シャントゥールにより、見事な初演がおこなわれた。

昨年、再び新曲の委嘱があった。今度は「男声合唱組曲『富士山』」のような、歌いやすく、男性的で、めりはりのきいた作品」という注文である。「富士山パートII」については各方面から依頼があるが、現状、まとまってない。そこで今回も、再度白秋詩集を開いた。またまた、今回の希望に合った詩群があった。こうして男声合唱組曲「三崎のうた・第二」が生まれた。冒頭「後朝」では、西南シャントゥールの大人の心理描写が期待されるし、終曲「鱗網」では、九州男児の意気のよさが披露されるであろう。

処で、ふと考えてみると、私との折衝の労を取られている西南シャントゥールの佐藤宗一マネージャーの見事な誘導によって、私は再び白秋の世界へ連れ戻された感じがする。手前味噌になるが、前回の「柳川風俗詩・第二」も今回の「三崎のうた・第二」も、手応え十分の作品となった。おそらく今後、全国で愛唱し続けられるであろう。

こうした創作に、適切に誘導して頂いた「管制塔・西南シャントゥール」の諸兄に、心から御礼申し上げると共に、演奏会のご成功と今後益々のご隆昌をお祈りする。

## 三崎時代の白秋

■大正元年・二七歳。白秋が詩壇で輝いていたのも束の間、柳川の名家北原家は没落、破産、彼自身も隣家の夫妻・松下俊子との不幸な恋愛事件で告訴され市ヶ谷の未決監に拘留。弟鉄雄の奔走により示談、免訴となるが、世間の烈しい指弾と罪の意識に苦しむ、しばらくは狂気寸前の錯乱状態にあった。憂鬱のあまり東京を離れ木更津に渡る。この頃を境に白秋は今までの半ば趣味的な享楽情緒を棄て人間の真実を求めて彷徨する心の巡礼者となり、「パンの会」に象徴された輝かしいその青春は終わりを告げた。

■大正二年・二八歳。一月、死を思って海路三浦三崎に渡るが死ぬこと得ず。この時の心境は「白金之独樂」の中の詩、野晒がよく表している「死ナムストレバイヨイヨニ、命恋シクナリニケリ」身ラ野晒ニナシハテテ、マコトノ涙イマゾ知ル。人妻ユエニヒトノミチ、汚シハテタルワレナレバ、トメトマラヌ煩惱ノ、罪ノヤミヂニフミマヨフ」胸を病んで身を持ち崩していた俊子と偶然再開、正式結婚、新生を求めて再度三崎町向ヶ崎に移住。光と力に満ちた「真珠抄」「雲母集」の生活がここに始まる。芸術座を卒いる島村抱月の依頼で絶唱「城ヶ島の雨」(梁田貞作曲)が書かれたのはこの頃であった。三崎町は東京湾の西出口神奈川県三浦半島の突っ先に位置する。現在は遠洋漁業の母港基地だが、当時は近海漁業のひなびた一漁村に過ぎなかった。東は東京湾を隔てて千葉県房総半島、西は相模湾、遠く鎌倉、江ノ島、茅ヶ崎を望み、伊豆半島天城山へと続く。北に富士山、南に伊豆大島が位置しているが、組曲最後の鱗網の一節に「北は大山、南は嶋よ、東、房州、えんやら西天城」と描写されている。ここでのひなびた漁村の風物、漁師生活、心情を多くの詩にうたい残した。

■大正三年・二九歳。一月三崎町六合海外の漁師の家に移住。三月妻俊子の病氣療養のため、彼女の友人で同じく胸を病む姉妹三人を伴い、小笠原の父島に渡り白秋の三浦三崎時代は終わる。なを、七月帰京、麻布十番の一家と同居。同月貧窮のうちに妻俊子と離別。

I 後朝

II 片浦千鳥

III 遠樹

IV 遠い岬

V 墓場

VI 鱗網

VII 鮎

VIII 鮎

IX 鮎

X 鮎

XI 鮎

XII 鮎

XIII 鮎

XIV 鮎

XV 鮎

XVI 鮎

XVII 鮎

XVIII 鮎

XIX 鮎

XX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

XXIII 鮎

XXIV 鮎

XXV 鮎

XXVI 鮎

XXVII 鮎

XXVIII 鮎

XXIX 鮎

XXX 鮎

XXI 鮎

XXII 鮎

<p style="

## II. 男声合唱とハープのためのアイルランド民謡

シャムロック（クローバー）に覆われる緑の島アイルランドは、ヨーロッパの西の果てにあったため、ローマ人の侵略を免れ、昔からのケルトの文化を継承してきた珍しい国である。古くは「エール」と呼ばれていたが、後にそれに「ランド」がつけられ「アイルランド」と呼ばれるようになった。

その歴史は「歌書よりは軍書に悲し」と言われるように、支配者に対する数々の蜂起は百戦百敗、あまりにも悲しい。特に800年にわたる英國の支配下では収奪は厳しく、首都ダブリンは大英帝国の第二の美しい都市とまで言われるほど繁栄したが、一方アイルランド語や民族衣装は勿論、アイルランド式に馬に乗ることさえも禁止され、違反すれば土地を没収された。その結果、カトリック教徒の生活水準はヨーロッパで最も貧しいとまで言われた。

その貧しさに追い打ちをかける大飢餓が起り、多くの人が亡くなり、やむなく祖国を離れた難民の数は、アメリカだけでも100万人を超えた。現在人口は340万余であるが、一方外国に住むアイルランド系の人は7千万人を超えるといわれ、この悲劇の歴史を如実に物語っている。

しかし「土地は取られたが、歌は残った」と言われるほど彼等の音楽に対する愛着は強く、特に新大陸アメリカでの彼等の活躍は目覚ましい。

### 1. St. Patrick's Day (セント・パトリックスデイ)

アイルランドの守護神で彼等はパディーと愛情をこめて呼ぶ。5世紀頃ブリタニア西部で生まれ、アイルランド人に囚われたが首尾よく脱出、その後布教のため再びアイルランドに渡り、この國をカトリックに改宗させた。アイルランド人は毎年3月17日シャムロックを表す紋の衣装をつけ、この守護神を記念すると共に祖国愛を高揚させるためパレードをする。この日、敵と勇敢に戦った先祖を称える歌で、伝統的な踊の曲ジグとしても有名。低音の完全5度の单调な響きは、戦いに赴く際に鳴らすイリアン・バイアス（ジグパイプの一種で、肘でふいごに空気を送りながら鳴らす）の音を模したもの。

### 2. It's a Long, long Way to Tipperary (チッペラリーへは遠い)

アイルランドの田舎チッペラリーからロンドンにおそらくは出稼ぎに来た若者の歌で『ロンドンは道が金で舗装されている、そして皆は陽気だ、しかし私の心は遙か古里にある、何故なら愛しいあの娘がいるから。ビカデリーよ、レスタスクエアよ、グッドバイ、チッペラリーは遠い。』

第一次大戦中、イギリス軍で流行ったが、昭和初期日本でも盛んに歌われた。

\*ビカデリー、レスタスクエアは有名なロンドンの繁華街。

### 3. The Kerry Dance (ケリー・ダンス)

アイルランドの南、ケリー郡の踊で、人々が集い、酒をのみ、話に花が咲き、音楽そして歌が始まるところに必ずこのダンスがある。戦闘間もなくヒジ小池（ブリマとしてアメリカで活躍）が歌ってから、わが國でも知られるようになった。彼女の福岡での演奏会は中洲の劇場「川丈」で、そこでこの曲を初めて聞いたが、緩急自在のテンポに音楽がかくも自由なものかと驚いたことを覚えている。両腕を体の側面にまっすぐ下ろしたまま、はずむように足をはねながら踊る独特のダンスはロンドンの舞台「リバーダンス」で観たが、アカペラの混声合唱とともに素晴らしいものであった。

### 4. Macushla (マクシラ)

『今はなきマクシラ、もう一度その白い手でやさしく抱いてくれ、君のあの赤い唇は「死は夢。愛は永遠」と今も語りかける。青い目のマクシラよ、今一度夢から覚めてくれ。』と男の想いをのべる叙情的な愛の歌。

さきほど上映された「マイケル・コリンズ」（アイルランドの闘士）で主人公が蜂起成功の後、流れ弾にあたって死ぬ時、バックでテナーが切と歌うこの曲は、悲劇のアイルランドを象徴するよう印象的だった。

### 5. The Minstrel Boy (少年吟遊詩人)

アイルランドでは吟遊詩人はショナックと呼ばれ、戦争や宗教の伝承や歴史を語るいわば日本における「琵琶法師」で文化的な扱いであった。特に14世紀頃は貴族は争ってハープ奏者や吟遊詩人を保護した。彼等の詩はゲーテやシラー、ワーズワースにも影響を与えた。

映画「哀愁」では、レストランでヒロインが何気なく見た新聞で恋人の戦死を知り、愕然とするというシーンがあるが、そのバックに流れているのがこの死地に赴く若者の歌である。

少年吟遊詩人は琵琶に背に、父親の形見の剣を腰に帯び『万人が敵に回ろうとも、この剣だけは自分を守るであろう』この琵琶も敵の為には決して鳴りはしない』と歌う、不業不屈のガール魂、アイリッシュ・ナショナリズムの歌である。

### 6. Londonderry Air (ロンドンデリー・エヤー)

世界で最も美しい民謡といわれるこの曲は、バナナボート・ソングで有名なハリー・ペラフォンテにより「ダニーボーイ」として歌われわが国でもよくしられている。今回は叙情詩集「アイルランド歌曲集」で躍国民的詩人となったトマス・ムーア（1779-1852）の詩で歌う。わが国では彼の「庭の千草」は、特に有名である。

『私が白いリンゴの花であれば、貴女の絹のような胸に舞い降りて憩うでしょう。また私はバラの花でありたい。そうすれば貴女に口づけできるでしょう。いや貴女は私を愛してはくれない。ならば、私は庭の小道に咲くひな菊になりたい。そうすれば、貴女はその銀のような足でわたしを踏んで行くでしょうから……。』



荒尾ルミ子（ハープ）

武蔵野音楽大学ピアノ科及びハープ科卒業。

篠野静江、ヨセフ・モルナル諸氏に師事。

東京ハープフェスティバル、労音演奏会等に出演、NHK福岡放送局及び九州交響楽団ハープ奏者を経て、現在福岡を中心に西日本各地でリサイタル、室内樂等の演奏活動を行っている。

荒尾ハープ・アンサンブル主宰。

九州交響楽団友、熊本音楽短期大学講師

NHK福岡文化センター講師。

## アイルランド民謡

### ■ 聖パトリックの日

おお、自由の国ニースフェイルの山々の上の緑の旗が壯厳にたなびいていた日々に祝福あれ！

その時、彼女の息子達は彼女の土地を踏みつけた侵入者に挑んで彼女の栄光と自由の為に身を擰げたのだ。

その時、ディン人を追いかけて大海原の上に追いはらって彼らの宗教と知識にダメージを与えたのだ。

又、その時には武勇と精神が一つに結合したものだったので、なぜ昔の栄光は過ぎ去ったという嘆きが聞かれるのだろうか。しかし、彼女の星は勢ぞろいしてキラ星の如く輝き出すだろう、なぜなら、今、聖パトリックの日に彼女が見ている子供達より勇敢で真実の心を持った子供達をもった事は今までに決して一度もなかったのだから。

おお、大砲に取り巻かれ、国民の拍手によって立たされ、歓呼して迎えられたあの時に祝福あれ

あの旗がアイルランドの人々のためにアイルランドのおきてを強く主張してダンガノンの尖塔の上空高くはためいた時に祝福あれ。

あの旗は國の大義をあざ笑う卑怯者がいるにもかかわらず、我らの心に勇敢さを示してもう一度はためくことだろう、彼らの信条がなんであれ、意氣投合した兄弟の様に、彼女の子供達は過ぎ去ったあの昔の栄光に鼓舞されて、もはや失望落胆の暗闇の中に宿らないで、聖パトリックの日に彼らの正義のために立ち上がる勇敢で真実の心をもった人の様にこの大義に加わるだろう。

### ■ チッペラリー迄は遠い

或る日一人のアイルランドの男がすばらしいロンドンへとやって来た。

道路は金で舗装しており、確かに誰もが楽しそうだった。ビカデリーやストランドやレスター広場の歌を歌っていると、遂にパディは興奮してきて、そこにいる人達に向かって叫んだ。

「チッペラリー迄は遠い、ずーと行かねばならない。チッペラリー迄は遠い、私が知っているとってもやさしい娘の所迄は遠い。さらばビカデリーよ、さらばレスター広場よ。チッペラリー迄は遠い、しかし私の心はそこにある！」

### ■ ケリー・ダンス

おお、ケリー・ダンスの日々よ！

おお、笛吹きの調べの響きよ！

おお、喜びの時の一つよ！

おお、我らが青春同様あまりにも遠く去ってしまった。夏の夜に少年達が谷間に集まり始める、ケリーの笛吹きの調べが狂ほしき喜びを待ち遠しく思われる。

おお、そのことを考えるだけで、おお、そのことを夢みるだけで私の心は涙で満たされる。

おお、ケリー・ダンスの日々よ！

おお、笛吹きの調べの響きよ！

おお、喜びの時の一つよ！

ああ、我らが青春同様あまりにも遠く去ってしまった。ダンスをしている時のエイリー・モアより素晴らしい少女がいただろうか？

あるいは彼が力強く踊り始めた時のティディ程誇らしげな若者がいただろうか？

「若者達よ、男も女も位置について、中央に寄って、後ろへさがって」

ああ、あの楽しい谷間を通って響いていたあの陽気な笑い声よ！

### ■ マキューシュラ

マキューシュラ！マキューシュラ！

あなたのきれな声が私を何度も何度もやさしく呼んでいる。マキューシュラ！マキューシュラ！

私の青い眼のマキューシュラよ、私はそのなつかしい嘆願の声を聞く、私はその声をむなしく聞いている。

マキューシュラ！マキューシュラ！

あなたの白い腕はさしのべられていて、いまでも私を抱きしめ、愛撫するのを感じる。私の死んでしまった恋人、マキューシュラよ、暗闇の中から手をのばし、私を見つけて、できるものなら、もう一度私をしかと抱きしめておくれ。

マキューシュラ！マキューシュラ！

あなたの赤い口唇は死は一つの夢にすぎない、そして愛は永遠だと言っている。

ならば目覚めよ、マキューシュラ、あなたの夢から、私の青い眼のマキューシュラよ、この世にとどまる為に目覚めよ。

### ■ 吟遊詩人の少年

吟遊詩人の少年は戦争を行ってしまった。

あなたたちは戦死した兵士達の中に彼を見つけるだろう。

彼は父の剣を腰につけ、背中には彼のすてきな豊饒を背負ったまま。

「歌の國では、全世界が汝を裏切らうとも、少なくとも一振りの刀は汝の正義を守り、一つの忠実な豊饒は汝を讃えるだろう」とこの戦士の吟遊詩人は言った。

吟遊詩人は倒れたしかし敵兵の鎧は彼の誇り高き魂をおさえることは出来なかった。

彼の愛した豊饒は決して再びは語らない、なぜなら彼はその絆をばらばらに切ってしまったから。そして彼は言った。

「いかなる鎖も汝を汚すことはない、愛と勇敢さの魂である汝を。汝の歌は誇りと自由の為に作られた。それらは奴隸としては決して歌われない」と。

### ■ ロンドンデリーの歌

もしも私が曲がりくねった枝を離れて

あなたの柔らかくつやつやした胸の中に横たわり絶してしまったために、

漂い落ちていくやさしい林檎の花だったらいいのにと願う、ちょうど今散っているように！

或いは私が、すぐそばをとても冷ややかにすべる様に通り過ぎて行くあなたに揃んでもらえる様に小さなつやつやした林檎だったらいにと願う、

日向と陰があなたの紗の衣とあなたの金髪にまだらの模様をつけている時に、

げに、もし私が、あなたがその間をふわふわと歩いて行く時に、あなたにキスをするために体を乗り出しているバラの一つだったらいにと願う、

一方、一番低い枝では、一つの蕾が女王の様なあなたにふれる為に開いているというのに。

いや、あなたは愛してくれようとはしないから、私はむしろあなたの銀の足が死にさえ至る迄に私を踏みつけてくれるかも知れない、庭の小路に生えている一本の幸せなひなぎくになれたらと願う。

（豊田佳日子・訳）

### 関川の里

越の国中つ頸城の  
名香山の関川の里

この里にいくさをのがれ  
この里に父を死なしめ  
この里に雨露をしのぎて  
この里に火をしのびき

妙高の裾野の末の  
深雪ふる関川の里

この里にいくさをのがれ  
この里に父を死なしめ  
この里に雨露をしのぎて  
この里に火をしのびき

この里にいくさをのがれ  
この里に父を死なしめ  
この里に雨露をしのぎて  
この里に火をしのびき

### 雪の中の歌

遠くで僕は歌つて  
神にもそれはきこえない

千里もつづく雪の原  
白い世界の一軒家

しかも四月のばらの歌  
人にもそれはきこえない

雪の脇腹から彼女は生れた  
梅花の香る夜明けでした。

### 或る誕生

雪がしばらくしてやむと  
やがて明るい朝でした。

鶴が輪を描いて舞つてゐた  
清らの笛を空に鳴らして。

暮れ方天使がおりて來た  
白百合の翼の白い天使でした。

この児を雪子と名づけます  
清い乙女になるやうに。

### 昔の雪

一人の女の子  
一人の女の子

あの女の子  
その女の子  
みんな昔の雪だ  
昔の雪は  
どこへ行つたのか

### 雪中越冬

越後の冬は長いから  
半としつづく冬だから  
高田の雪は深いから  
人の情と似ないから

北国も滋生半ばは  
雪老いて瘦せたりな  
つやあせて香の失せて  
わが姿ながらよ

咲く花は見ずて消ゆ

### 老 雪

北国も滋生半ばは

雪老いて瘦せたりな  
つやあせて香の失せて

この里にいくさをのがれ  
この里に父を死なしめ  
この里に雨露をしのぎて  
この里に火をしのびき

妙高の裾野の末の  
深雪ふる関川の里

賛助出演／西南学院グリークラブ



## III. 男声合唱組曲「雪国にて」

詩人堀口學先生は、第二次世界大戦末期の昭和19年11月、外交官だったご尊父と共に戰火を逃れて東京から興津に移り、同20年7月、更に新潟県中頸城郡名香山村関川に移り住まれた。そして同年10月31日、ご尊父急逝。

堀口先生は、その四十九日法要のあと、親交のあったかたがたに、次のような要旨の御札状を送られている。

謹啓いよいよご清栄賀し上げます。長城堀口九萬一死去の際は、早速懇意なご弔詞とお供物を賜り有り難うございました。

(中略) 昨年十一月興津の小生仮萬へ東京から疎開、本年七月小生等と共に当所へ再疎開、(中略) 読書と散歩三昧の百余日を過ごしたのでした。葬儀は十一月四日、紅葉にうもるる当所で、ダビに附しました。黒土の道を行くさやかな葬列を、妙高山がじつと何時までも見送って呉れました。(中略) 八十一才の生涯でした。書巻は一日もついに放さず、最後は陸放翁の詩集を読んでおりました。山重水複疑無路。柳暗花明又一村。と、こう、口ずさびながら瞑目したのではないかと思います。(中略)

挽歌一  
越の故山に逝きましぬ  
いくさの果てを見とどけて  
紅葉とともに散りましぬ  
子の養うを待ちもせで

挽歌二  
帰するが如く逝きましぬ  
山の時雨の日ぐれ時  
眠るが如くみまかりぬ  
破れし國の秋のはて

1978年(昭和53)年、上智大学グリークラブの委嘱作品を作曲するに当たって、堀口大學詩集を読み通している時、「健剛院中陰」と題して掲載されている前述の書状に目を留めた。この詩の感動をもとに、冒頭に「越の国中つ頸城の/名香山の関川の里」に始まる「関川の里」を配し、これに雪の詩を続けて、組曲にまとめた。

学生時代、心酔し切って歌いつづけた堀口大學作詩、清水脩作曲の組曲「月光のピエロ」と同じく、堀口先生の、キラリと光る言葉や筆致は、この六つの詩にも随所に鏤められ、「ご尊父への暖かい愛情」「雪深い妙高高原の大自然」に包まれた、清浄な詩群として私の心の中にも深く刻み込まれた。

多田 武彦

### I. 関川の里

新潟県中頸城郡の名香山の関川の里。昭和20年作者はここに疎開しており、ここで人生、文学の師と敬っていた父の死を迎えた。不幸に耐え、飢えをしのいだ山里がしみじみと歌われている。

### II. 或る誕生

梅の花香る一月の長女の誕生を描いたもので、女児の誕生をことのほか喜んだ作者の願いがほのぼのと歌われる。

### III. 雪の中の歌

うねりたゆたう合唱の中、バリトンソロが徹底した雪の中の孤独を歌う。「朝にこそいろはにはへど夕さればはやちりぬる」恋さながらにはかないばらの歌。神にも、人にもそれは聞こえない。

### IV. 昔の雪

前半部、ト長調で軽やかな女の子たちの姿が提示され、中間部、ト短調で昔の雪のように消えてしまった女の子たちはどこへ行つたのか問い合わせている。

### V. 老雪

敗戦の世相の中で老いて行く身を、色香の失せた北国の残雪になぞらえ、自分も春咲く花を見ないで消えてゆくのかと嘆いている。

### VI. 雪中越冬

第一曲目同様、ト長調の合唱によるハミングにしたテノールソロが始まる。フェルマータが多く用され、半年続く、長く雪深い越後の冬が、高田への深い想いと共に歌われる。

## IV. レクイエム 二短調

### ケルビーニ、ルイジ (Cherubini, Luigi) について

1760.9.14 フィレンツェ生まれのイタリアの作曲家。チェンバロ奏者の父から6才で音楽の手ほどきを受け、作曲を始める。創作活動は3期にわたることができる。第1期(1780~91)はアカペラ様式のミサやモテット、ナボリ楽派のスタイルによるオペラを作曲していた時代。イギリス王室作曲家をつとめたのもこの頃。第2期(1791~15)はグランド・オペラ様式を確立した時代。フランスを舞台に活躍、オペラ「ロドイスカ Lodoiska」の成功により地位を確立、ベートーベンはケルビーニのオペラを高く評価し、声楽の取り扱いに関して大きな影響を受けたといわれる。第3期(1816以降)はミサやレクイエムなどの教会音楽が集中的に書かれた時代、作風は保守的だが、古いイタリアの対位法様式を19世紀前半に復活し、すぐれた教会音楽を残した功績は大きい。彼の名が一番普及しているのは、今日では合唱関係者の間である。教会用作品の中でもとりわけ混声用のハ短調と男声用のニ短調の「死者のためのミサ曲」通称『レクイエム』で人気を博している。混声ハ短調『レクイエム』は1817年57歳で初演、当時カトリック教会聖歌隊には女声を加えないこともあり、その17年後1834年74歳の時、男声用ニ短調『レクイエム』を書き始め、1836年に完成、1838年ソシエテ・コンセルで初演。葬儀用ミサ曲ながら初演はコンサート音楽として行われた。78歳であった。彼はその後4年の寿命を全うし82歳1842年に帰らぬ旅に立った。勿論彼の希望通りこの作品は彼の葬儀ミサの中で歌われたのであった。

■フォーレやモツアルト等の「レクイエム」は演奏会でよく演奏されるが、それは何といってもその音楽が優れているからであろうが、更にこの種の作品には、他の作品とは違った魂の深奥に迫り、人の存在そのものを問ううものがあることは否定できない。この曲によって、演奏するものも、聴くものも共に、さらに深く、高い次元での魂の共感を味わうことができる。

### ■ミサとは

もともと、クリスチャンは、自らをユダヤ教の伝統を引き継ぐものとして、ユダヤ教の会堂で礼拝をした後、キリストの言葉に基づき、信徒の家で共同の食事を守ってきたが、ユダヤ人はキリスト教徒を異端とみなし、彼等を会堂から追放した。やむなく彼等は礼拝と共同の食事（キリストを記念する食事）と一緒にに行なうようになった。これがミサの起こりである。

ミサには礼拝の部（未信者でも参加できる）と、聖餐の部（キリストの体と血であるパンと葡萄酒にあずかる式）とがあったが、この礼拝の部の終わりに、司会者が「行け、解散である」(Ite, missa est.)と宣言したところから、この聖餐のことを『ミサ（解散）』と呼ぶようになり、その後この両方を含む典礼形式そのものを、この名で呼ぶようになった。

### ■『死者のためのミサ』の誕生

初期のキリスト教徒は、信者が亡くなった時でも、死によって失われることのない、永遠の交わりを感謝して『ミサ』の祭りをささげてきた。

しかし、中世末期（9世紀頃）、政情不安や飢餓、疫病などの暗い世相の影響を受け、『煉獄説』（人は死後、煉獄に落とされ、厳しい責め苦を受け、罪の償いをせねばならない）が広く信じられるようになって、本来共同体の祭であったものが、ミサをあげれば、その功德によって責め苦が軽減されると考えられるようになり、一般的のミサとは異なる独特の形式が定着してきた。

マルテン・ルターの宗教改革以降、カトリックも中世時代に乱れた教会の網紀や典礼を引き締める「対抗宗教改革」に着手し『死者の為のミサ』の公式な典礼文が制定された。

この形式は旧約聖書のエズラ記からとられた「永遠の休息を与えたまえ… (Requiem aeternam...) という句が典礼文中に何度も繰り返されることから「レクイエム」という通称で知られるようになった。



平田 孝子 (オルガン)

山口県出身。エリザベイト音楽大学宗教音楽科パイオルガンコース卒業。オルガンを戸沢真弓、大代 恵に、即興演奏をフランス・ボーン諸氏に師事。同大学定期演奏会、卒業演奏会、パイプ・オルガン新人演奏会、広島市新人演奏会等に出演。1991年夏オランダにて バッハ国際音楽祭マスタークラスに参加し、研鑽を積む。1993年春、スペインのセビリア大聖堂にて演奏会を行い好評を博す。現在、福岡カテドラル大名町教会オルガニストであり、また各オーケストラや合唱團のオルガニスト、伴奏なども務める。日本オルガニスト協会会員

疋田 康敏 (ティンパニー)

九大フィル〇B  
パーカッションアンサンブル“ポットベリー”メンバー

### INTROITUS ET KYRIE

Requiem aeternam dona eis, Domine,  
et lux perpetua luceat eis!  
Te decet hymnus, Deus in Sion,  
et tibi reddetur votum in Jerusalem;  
exaudi orationem meam;  
ad te omnis caro veniet.  
Requiem aeternam dona eis, Domine!  
et lux perpetua luceat eis!

Kyrie eleison, Christe eleison.  
Kyrie eleison.

### DIES IRAE

Dies irae, dies illa  
solvet saeculum in favilla, teste David cum Sibylla;  
quantus tremor est futurus, quando judex est  
venturus, cuncta stricte discussurus.  
Tuba mirum spargens sonum per sepulcra  
regionum, cogit omnes ante thronum.  
Mors stupebit et natura, cum resurget creatura,  
judicanti responsura;  
liber scriptus proferetur, in quo totum continetur,  
unde mundus judicetur.  
Judex ergo cum sedebit,  
quidquid latet apparebit,  
nil inultum remanebit;  
quid sum miser tunc dicturus?  
quem patronum rogaturus, cum vix justus sit  
securus?

Rex tremendae majestatis, qui salvandos salvas  
gratis, salva me, fons pietatis.

Recordare Jesu pie,  
quod sum causa tuae viae,  
ne me perdas illa die.

Quaerens me sedisti lassus,  
redemisti crucem passus;  
tantus labor non sit cassus.  
Juste judex ultionis,  
donum fac remissionis ante diem rationis.

Ingemisco tanquam reus, culpa rubet vultus meus,  
supplicanti parce, Deus.  
Qui Mariam absolvisti, et latronem exaudisti,  
mihi quoque spem dedisti;  
Preces meae non sunt dignae,  
sed tu bonus fac benigne,  
ne perenni cremer igne;  
inter oves locum praesta  
et ab hoedis me sequestra, statuens in parte dextra.

Confutatis maledictis, flammis acribus addictis,  
Voca me cum benedictis;  
oro supplex et acclinis, cor contritum quasi cinis,  
gere curam mei finis.  
Lacrimosa dies illa, qua resurget ex favilla  
judicandus homo reus;  
huic ergo parce, Deus.  
Pie Jesu, Domine,  
dona eis requiem. Amen.

主よ、彼らに永遠の安息を与えたまえ。  
そして絶えることのない光が彼らを照らしますように。  
神よ、シオンで贊美を獻げるはあなたにふさわしい。  
そして誓いはエルサレムにてあなたに果たされる。

私の祈りを聞きたまえ。  
すべて肉なる人はあなたのもとに来るでしょう。  
主よ、彼らに永遠の安息を与えたまえ。  
そして絶えることのない光が彼らを照らしますように。

主よ、憐みたまえ。 キリストよ、憐みたまえ。  
主よ、憐みたまえ。

その日は怒りの日、  
ダビデ王とシビラを証人として世界を灰燼に帰せしめる。  
審判者キリストがすべてのことを厳しく裁こうとして来られる時、人々はどれほど恐れおののくことだろう。  
不思議な音を全地の墓の上に鳴り響かせるラッパがすべての人を玉座の前に集める。  
被造物なる人が審判者キリストに答弁しようとしてよみがえるとき死と自然は驚くであろう。  
その中にすべてのことが書き記された書物が差し出される。  
それによって世界が裁かれるのだ。  
それゆえ、裁き主が座に着いたもうとき  
隠されていたものはすべてあらわにされるだろう。  
むくいられずに残るものはなにひとつないだろう。  
そのとき哀れな私は何を言えよう。  
誰を保護者として願えよう。  
正しい人でさえほとんど心安らかでないというのに。

救われるべき者を恵みをもって救いたもう恐るべき威光の王よ、  
私を救いたまえ、いつくしみの源泉なる方よ。

いつくしみ深いイエスよ、あなたが地上に来られたのは、  
私のためであったことを思い出したまえ。  
その（最後の審判の）日、私を滅ぼしたもうことのありませんように。  
私を尋ね、疲れてあなたは座したもうた。  
十字架の苦しみを忍び、あなたは私をあがなったもうた。  
これほどの労苦が無駄となることのありませんように。  
善悪を報いられる正しい審判者よ、  
罪の精算の日が来る前に、赦免という贈り物を与えたまえ。

私は被告人のように嘆く。私の罪を思うと顔が赤らむ。  
神よ、哀願する私を惜しまれ。マグダラのマリアを赦し、盜賊の願いを聞き入れて  
私にも希望を与えられたもうた神よ。  
身のほど知らずな願いではありますが、  
あなたは情け深くあられますから好意をなしたまえ。  
私が永遠の火に焼かれることのありませんように。  
羊の間に位置を与え、  
右側に立たせて私を山羊より離したまえ。

呪われた者たちが口をふさがれ、激しい炎に引き渡されるとき、  
私を祝福された者たちと共に呼びたまえ。  
哀願し、ひれふして私は祈る。心は灰のようになくなっている。  
私の最後の不安を心にかけたまえ。  
人が被告人として灰の中からよみがえるその日は  
涙あふれる日。  
それゆえ神よ、この私を惜しましたまえ。  
慈悲深い主なるイエスよ、  
彼らに安息を与えたまえ。アーメン。

## Members (出演者のみ)

Top Tenor      Second Tenor      Baritone      Bass

徳永麟之助 (S.6)	福井 熱 (S.31)	林 照樹 (S.24)	下川 勝史 (S.26)
内海 洋一 (S.17)	馬頭 経明 (S.34)	内海 敬三 (S.29)	豊田佳日子 (S.28)
秋根 武 (S.25)	野辺 和馬 (S.34)	杉山 博一 (S.35)	木道 昇 (S.29)
乙藤 成美 (S.29)	波多江 忠 (S.35)	和田 正義 (S.36)	田中 義信 (S.30)
宮地 基嗣 (S.29)	徳永 和彦 (S.36)	石川 和義 (S.41)	井形 宣英 (S.30)
高木 正志 (S.34)	佐藤 宗一 (S.40)	古賀 正義 (S.42)	鶴 喜廣 (S.32)
出口 幸一 (S.38)	黒江 量二 (S.40)	森 博彦 (S.44)	松枝 保匡 (S.34)
中尾 武史 (S.38)	石松 茂 (S.44)	松尾 淳郎 (S.45)	夏秋 毅昭 (S.41)
本山 和文 (S.44)	窪田 敏博 (S.46)	高川 弘幸 (S.45)	宮地 純 (S.58)
山元 一憲 (S.45)	波左間 実 (S.46)	佐藤 棟也 (S.45)	小泉 麗 (現役3年)
杉本 哲也 (S.50)	亀川 正則 (S.54)	轟木 保弘 (現役3年) OB担当	
山口 聰 (S.50)	亀井 幹登 (現役4年) 前OB担当	佐野 将史 (現役2年)	
中竹 茂美 (S.58)			



## 西南シャントゥールと私



岩崎 洋一

福岡教育大学教授  
福岡フラウエンコール  
指揮者

### 西南シャントゥールの存在

西南シャントゥールの名を耳にするたびに思うのは、男声合唱として多くの団員を擁し、委嘱作品を活発に行い、毎年定期演奏会を催される足腰の強い合唱団の姿なのです。アフター・ファイブの取りづらい時代に、これ程の活動ができる背景は何なのでしょう。男声四部合唱の独特的響き、トップテナーが誇らしげにメロディーを歌い上げる様は、男声合唱の醍醐味である男のロマンを感じさせます。それだけに聴く側は、混声、女声と違った音楽のときめきがあり、それが西南シャントゥールの存在なのです。

これまでご一緒させていただく機会が2度ありました。ともに福岡フラウエンコールの定期演奏会への賛助をお願いしてのステージでしたが、新たな試みとして混声合唱組曲「海鳥の詩」を合同で演奏したことです。いつもは女声合唱と男声合唱の独立した活動であるにもかかわらず、混声合唱という形態を取ったことにより、男声パートに支えられた女声が伸びやかに歌いきった混声の響きは新鮮な舞台として心に残っています。このような企画も西南シャントゥールの皆様方の存在を抜きにして考えられないことでした。

今日は男声合唱としての西南シャントゥールの響きに酔いしれることにしましょう。

■詩は書かれている原語で理解し味わうのが本道に違いない。だがネイティブでない者にとってそれは困難な作業となる。ましてそれを歌って人様に聴いて頂くとなると至難の域に入る。原語そのものに堪能でなくとも、その言語の背景にある歴史や文化に多少の造詣と興味があれば鑑賞の度合は随分深くなるに違いない。一般公開の演奏会に集まる聴衆はきっとその様な方々だろう。しかし私どものお客様は恐らく大半はそうではあるまい。団員に懇願され理義と付き合いで足を運ばれた方々も少なくないと思う。その様な方々に苦痛と落胆を与えるのではないかと外国物の演奏の時はいつも心配になる。様々な限界を感じつつ、しかし「音楽は万国の共通語」を盾に、そしてメロディーの美しさに助けられ曲の雰囲気だけでも伝えたいと願うのである。「イルランド民謡」は英語、「レクイエム」はラテン語とギリシャ語だが、まあまあそれなりに表現できたのではないか。今年の委嘱作品「三崎のうた・第二」は抵抗なく充分にお楽しみ戴けたと思う。

■今年も多くの方々のご尽力を戴きました。作曲の多田武彦、編曲の吉田悠作、オルガンの平田孝子、ハープの荒尾ルミ子、ティンパニーの疋田康敏、各氏に心よりお礼申し上げます。グリークラブの諸君有難う。そしてご来場の皆様今年も有難うございました。今後とも西南シャントゥールにご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

マネージャー 佐藤宗一  
事務局 〒814-0123 城南区長尾2-22-56 TEL 092-531-1315 FAX 092-531-1316

〔本日 使用楽器〕ヤマハ提供

◎ヤマハエレクトーンチャーチモデル F-200

◎ヤマハティンパニー

